

天沼小だより

文責

校長

大里



日本の学校教育の良き伝統

日本では全国どの小学校でも、児童による清掃の時間が設定されています。天沼小学校でも、昼休みの後、15分間の清掃活動に取り組んでいます。子どもたちは、校舎内外、自分の担当する場所に散らばって、掃き掃除に雑巾がけなど、昔ながらの方法で自分の生活の場を快適に保つ努力をしています。

コロナウイルス感染予防対策のために、児童による清掃活動を停止した時期もありましたが、換気、マスク着用、清掃後の石けんでの手洗いを徹底することで、今は通常通りの清掃活動を行っています。

児童による学校内の清掃という文化は、日本独特のものらしく、諸外国では清掃スタッフによる清掃が一般的だと聞きます。

自分たちで清掃をするということには、ただ「場所をきれいにする」だけでなく、いろいろな意味での教育的意義が込められているように思います。

○学校掃除には、清潔の習慣形成、公共心の育成、健康の増進、勤労の体験などの教育的効果も期待できます。

○清掃活動が基本的な生活習慣の形成などの日常生活の実践に結びつく教育的効果が期待できます。

○分担と実践の教育活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、責任感を育成するとともに、教師と児童生徒、児童生徒相互の触れ合いを深めています。

このような日本の学校の清掃文化を海外の人たちはどのように感じているのでしょうか。ネットに次のような記事を見つけました。

◎日本で英語教師を3年ほどしたことがある。自分も掃除に参加したが、素晴らしいシステムだと思ったよ。子どもに学校をきれいにすることを教えられるし、このことによって丁寧に扱うようになるよ。自分が掃除するところにゴミなんか捨てないからね。

◎学校は教科書から学ぶだけの場所ではない。社会の一員として、自分自身に責任を持つことを学ぶ場所でもあるのだ。

◎身の回りのものを丁寧に扱うことを覚えることができる。もし自分で掃除しなければならないのなら、雑に扱ったりしないから。

天沼小学校の子どもたちは、毎日の清掃活動を通して、「公共心」を培っています。「公共心」とは、周りの人のために尽くそうとする心、社会全体の利益を図ろうとする精神。社会的連帯を自覚する心です。

AED操作の自主研修

天沼小学校では毎年、AED操作の職員研修を行っています。新型コロナ感染予防対策のために、消防署職員の訪問指導を受けることはできませんでしたが、機材を借りて本校職員の自主研修を行いました。

職員の一人は、スポーツサークルの活動中にメンバーの一人が突然倒れ、実際にAEDを使用するという場面に遭遇したそうです。緊急場面ではさすがに慌ててしまったものの、毎年の研修でAEDを操作していた経験が役だったと実感したそうです。倒れてしまったお友達は元気に回復され、今もスポーツを楽しんでいるそうです。万が一に備えてはいますが、天沼小学校ではAEDを使用するような場面が起こらないことを願います。

